

文京区立第九中学校 校長室通信

「文京九中 ここにあり」



平成28年度 第2号
平成27年5月23日発行



文京区立第九中学校 校長 小 椋 孝
■ TEL 03-3821-7178 ■ FAX 03-5685-4955
■ HP <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/daikyu-jh/>

いよいよ運動会！ ひたむきに頑張る九中生の姿にどうぞ温かいご声援を

平成28年度第70回運動会が、いよいよ今週の土曜日（5月28日）に迫りました。先週18日（水）から学年練習が、また19日（木）からは早朝練習も始まり、運動会に向けた取組が本格化しています。3年生の最後の運動会に賭ける意気込みあふれる姿をはじめとして、2年生、1年生もとても前向きに取り組んでいます。この時期の運動会開催は、どうしても慌ただしいスケジュールになってしまいますが、学年、学級の団結に加え、本校では伝統の女子全員による「九中ソーラン」、男子全員による「組体操」への取組を通して「九中魂」ともいべき「限界を決めずに何事にもひたむきに頑張る力」、その結果として何物にも替えがたい仲間との「協力、団結、信頼」、そしてかけがえのない仲間づくりのよい機会としています。

学校では、早朝から放課後まで生徒の元気な声が響いており、運動会が間近に迫っていることを実感します。近隣にお住いの皆様には大変ご迷惑をお掛けして恐縮ですが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

また、ご家庭においても毎日、体育着の洗濯、疲れて帰ってくる子どもの体調管理など大変かと存じます。特に「オン・オフの切り替えを大切にすること」、そして「充実した気力、体力のためには睡眠と栄養が大切であること」について、ご家庭でのご理解、ご協力が不可欠だと存じますので、あわせてご協力いただけますようお願い申し上げます。

平成28年度運動会スローガン

「 魅せろ！ 九中魂！ 築け！ 勝利への架け橋 」

熊本地震への義援金 皆様の温かなご協力に感謝申し上げます

地震の被害で困っている人たちに、「自分たちでできることは何だろう」。生徒会の発案で、熊本地震の被災地への募金活動が4月26日（火）～28日（木）に行われ、3日間で生徒、保護者の皆様の善意がたくさん寄せられ、何と76,549円もの金額が集まりました。

集まった募金は、生徒会役員の代表が5月9日（月）に文京区役所に出向き、文京区教育委員会の南新平教育長に手渡しました。南教育長からは、感謝と労いの言葉とともに、文京区として責任をもって被災地のために役立てるようになるとのお話をいただきました。生徒会役員の皆さんも、「自分たちが集めた募金で、被災地の方が少しでも笑顔になってくれたらありがたい」と話し、達成感を感じていた様子でした。

この募金を通じて培った「困っている人がいたら手を差し伸べてあげよう、助けてあげよう」という温かな気持ちが、日頃の学校生活でも生かされ、九中が大切にしている生徒全員が安心して力を発揮できる雰囲気さをさらに高めていくことを期待しています。



募金総額

76,549円

今年も「新聞への意見文」投稿を勧めています

本校では、国語の発展的な学習として、文章をまとめる力を育成することや若者の意見発表のよい機会として、新聞の投書欄への投稿を勧めています。今年度も、行事や学校生活への思い、日頃感じていることなどを投稿したものが各紙に数多く掲載されています。

中学生には、これからの変化の激しい社会を生き抜くために、身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けるとともに、それを生かして課題解決を図る力を身に付けていくことが求められています。自分自身の考えを明確にして発信することは、自ら考え、判断し、行動する力の基盤となります。短い文章の中に、物事を正しくとらえた上で、感じたことや意見を表すことは、大人でもなかなか大変なことですが、掲載された文は、これらのことをしっかりと自分自身の言葉で表しています。掲載文を順次紹介してまいりますので、ぜひご家庭の皆様でご一読ください。

※ 今回は、1年生が新入学の想いをつづった掲載文を紹介します。

※ 毎日新聞「みんなの広場」平成28年5月9日（月）掲載

私の世界を広げた時間

中学生 鈴木 萌友（13） 東京都文京区 [1年2組]

「よろしくね」。いろいろな場所からそんな声が聞こえてくる。この声は、入学式を終えたこれからの仲間が新しい一歩を踏み出している証だった。でも私はその一歩をなかなか踏み出せなかった。そんな私の背中を押してくれたのが、「話し合い」の時間だった。

あることについて話し合うというテーマが出た時、正直「最悪だ」と思った。周りは話したことがない人ばかりだし、いきなり話せと言われても自分から話すことができないからだ。でも実際は最初に話題を振ってくれた子がいて、それを支えてくれた子がいて、とても話しやすかった。その時、私はあることに気が付いた。コミュニケーションをとることは人が生きていく上で一番大切で、人の重要な宝物であることに。

この経験があったから今の私がいると思う。やっぱり人と人は言葉がないと通じ合えない。その通じ合う一声をかけることが、つながりや世界を広げるための「カギ」になると改めて実感することができた。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」平成28年5月16日（月）掲載

すぐに緊張解けた中学校生活

中学生 山内 海青（12） 東京都文京区 [1年2組]

「とうとうこの日が来た」。不安だった中学校の入学式当日、僕はこんなふうに思っていました。クラス名簿を見ると、同じ小学校だった子にくわえて、名前に聞き覚えがある子、保育園でいっしょだったけれど小学校が別の子もいました。しかし、入学式の日には緊張し、知らない子とは何も話せませんでした。

翌日、学校のチャイムが鳴ったとき、僕は中学校生活の第一歩を踏み出したような気がしました。そして自己紹介の時間があり、僕と同じ鉄道好きの子がいて、本当に良かったです。

班長、副班長決めもあり、班ごとに話し合いました。最初はだれもしゃべりませんでしたが、「どうする？」というだれかの一言でうちとけ合い、話がはずみうれしかったです。

今ではクラスメートに気軽に話しかけることができるようになり、どんどん友達ができ、毎日学校に行くことが楽しみになりました。